

リハビリテーション研究法特論 (質的研究&事例研究)

[講義] 第 1 学年 前期 必修 2 単位

【担当者名】 本家寿洋 honke@hoku-iryo-u.ac.jp 近藤里美 鈴木瑞恵

【概要】

リハビリテーションを実践する臨床家は、いつの時代においても目の前の対象者に対して、最善の治療を提供し続ける努力が必要である。そのためにはエビデンスを確立するための仮説検証型の量的研究だけではなく、仮説生成型の研究である事例研究や質的研究方法を習得する必要がある。従って本講義では仮説生成型研究に必要な事例研究と質的研究の方法の基礎を概説する。

【学修目標】

一般目標：

- 1. 事例研究の進め方を理解する。 2. 事例研究の手法であるシングルケースデザインを理解する。
- 3. 質的研究の方法を理解する。

行動目標：

- 1. 事例研究の進め方を説明できる。 2. 事例研究の手法であるシングルケースデザインを説明できる。
- 3. 質的研究の方法を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1・2	質的研究総論	質的研究とは何か、質的・量的研究の違いを学ぶ。	本家寿洋
3・4	質的研究総論	内容分析の手法を文献を使用して学ぶ。	本家寿洋
5・6	質的研究総論	エスノグラフィー、グラウンデッドセオリー、KJ法現象学的解釈を文献を使用して学ぶ。	本家寿洋
7・8	質的研究方法と質的データ分析 1	質的研究の問いと研究方法の選択	近藤里美
9・10	質的研究方法と質的データ分析 2	Steps for Coding and Theorization (SCAT)、テキスト・マニング、エピソード記述研究など	近藤里美
11～15	シングルケーススタディ	シングルケーススタディの基礎理論、シングルケーススタディによる研究論文のクリティークを行う	鈴木瑞恵

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート100% (質的研究50%、事例研究25%、シングルケースデザイン25%)

【教科書】

特に指定しない

【参考書】

抱井尚子 著 「混合研究法入門 - 質と量による統合のアート」 医学書院 2015年

山田孝 編 「作業療法研究法」 医学書院 2015年

グレッグ美鈴 他編 「よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 - 看護研究のレポートをめざして 第2版」 医歯薬出版 2016年

小田博志 監 「新版 質的研究入門」 春秋社 2011年

鯨岡峻 著 「人が人をわかるといふこと：問主観性と相互主体性」 ミネルヴァ書房 2006年

樋口耕一 著 「社会調査のための計量テキスト分析」 ナカニシヤ出版 2014年

西条剛央 著 「ライブ講義 質的研究とは何か」 新躍社 2008年

【備考】

質的研究法は水曜日開講を中心に実施する。

【学修の準備】

- ・ 次回の演習に必要な提出課題を課すので、必ず実施すること(予習80分)。
- ・ 講義で学んだ関連分野に興味を持つために、文献などを各自調査すること(復習80分)。

【ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) との関連】

DP5：研究成果を学術的に発信できる能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

(2026年度・大学院 リハビリテーション科学研究科)

【実務経験】

本家寿洋 (作業療法士)、近藤里美 (音楽療法士)、鈴木瑞恵 (言語聴覚士)

【実務経験を活かした教育内容】

臨床および研究経験に基づいた講義を行う。